

令和4年度事業報告書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

1. 事業の成果

日本国内の事業として、東京都小笠原村父島の「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」の運営管理を小笠原村より受託し、従来通りのウミガメ保全調査活動を遂行した。ウミガメやザトウクジラについて外部研究者と共同研究を積極的に行うことで生態解明や個体群動態に関する調査研究にも取り組んだ。ウミガメ飼育の他、研究や調査から得られた最新情報の展示をおこない、展示施設を利用した教育プログラムも継続して行った。小笠原小学校5年生の総合学習事業も継続した。これら小笠原海洋センター内での普及啓発活動について本年度、第18回エコツアーリズム大賞（環境大臣賞）で優秀賞を受賞した。また、島内外の人をボランティアやインターンとして広く一般から受け入れ、知見を広める場を提供したほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。

関東沿岸でのウミガメ調査事業は、本年度新たに伊豆諸島まで拡大してウミガメ調査を実施した。伊豆諸島におけるウミガメの知られざる生態解明を目的に、関連機関や島民との関係構築を勧めつつ調査をおこなった。ウミガメ漂着調査は、漂着個体と定置網混獲個体を対象に調査し、生態解明に注力したほか、大学との共同研究関係を構築して健康状態調査のための病理検査も行った。普及啓発事業に関して、関東での対面イベントやオンラインでの主催イベントを4回実施したほか、既存イベントへの出店も積極的におこなった。WebやSNSを利用し、一般の人に対しての情報提供や啓発も継続した。ウミガメジョイントブリーディング（小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム）を計5組織で実施した。

国外事業として、インドネシアにおけるウミガメ保全事業を、現地NGOである「インドネシアウミガメ研究センター（YPLI）」をカウンターパートとして継続した。ジャワ海の4ヵ所の島において、現地住民をレンジャーとして雇用してタイマイとアオウミガメ卵の保全事業やモニタリング調査を継続した。西パプア州では地域住民と協働で、ワルマメディ海岸及びジェン・シュアアップ海岸におけるオサガメのモニタリング調査を実施し、資源動態に関するデータの取り纏めと報告をおこなった。本年度は他組織への保全技術指導や知見共有の他、継続的に保全を実施するための資金獲得やYPLIの育成に注力した。

国内において、オリジナルグッズの物品販売事業やフェアトレードを実施した。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

1 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:46,022千円】

1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】 本年度は、活動地以外のウミガメ個体数回復を目指す目的で、他組織へのウミガメ保全技術指導や知見共有に注力した。他組織の調査員を活動地に招待し実践的な調査体験や指導をおこなったり、オンラインでの情報共有を定期的実施した。タイマイ保全を目的としたジャワ海での保全活動は、4島（セガマ・ブサール島、プスムット島、キマル島、プナンブン島）で継続した。今年、タイマイ4,633巣（前年比+801）とアオウミガメ820巣（前年比+105）分の卵を盗掘から保護し、推定約240,000匹のタイマイと18,000匹のアオウミガメを海に帰すことができた（2022年1月-12月）。プスムット島でのタイマイ保全活動について、東ブリトン地区政府の水産局および文化観光局から推薦状をいただいた。また、インドネシアにおけるタイマイの遺伝的系群解析のための共同研究も進めた。

西パプア州では、ワルマメディ海岸（ジェン・イエッサ地区）とジェン・シュアアップ海岸にてウミガメ産卵数のモニタリング調査を継続した。今年度のワルマメディ海岸のオサガメ産卵巣数（2022年1-12月）は217巣であり、年々減少傾向にある。ジェン・シュアアップ海岸では1,151巣（2022年1-12月）とやや減少した。両海岸を合算して夏場個体群（4-9月）と冬場個体群（10-5月）に分けて傾向を見て見ると、夏場個体群は安定的なのに対し、冬場個体群は今年度は減少が著しい年となった。

- ・ 地球環境日本基金助成（一部）
- ・ 国際資源評価等推進補助事業（一部）
- ・ Billion Baby Turtle助成事業（一部）

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 ジャワ海周辺（セガマ・ブサール島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ

州、スリブ諸島)、西パプア州(ジェン・イエッサ地区、ジェン・シュアアップ地区)

【従事者人員】5人

【対象】ジャワ海周辺地域の住民(50~80名)、海洋漁業省ソロン支局、タンブロウ政府、西パプア州地区住民(1,000人)

2. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化後調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、帰海できなくなった産卵メスガメや入海できないふ化稚ガメの保護も行った。食用捕獲されたメスガメの体内から採取された体内卵のふ化事業を実施した。外部研究者と共同研究を積極的に行い、研究者5名、修論生1名、卒論生2名の受け入れ、小笠原の事業内容が大きく向上した。

- ・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業(一部)
- ・ 三井物産環境基金助成事業(一部)

【日時】令和3年4月1日から令和5年3月31日

【場所】小笠原諸島

【従事者人数】7人

【対象】島民(約2,700人)、一般(不特定多数)

3. 伊豆諸島および関東沿岸におけるウミガメ漂着調査事業

【内容】関東沿岸(茨城県、千葉県、神奈川県)のウミガメ漂着(ストランディング)調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した(全情報235頭中139頭調査)。昨年度に引き続き、誤食ゴミの定量化や糞に含まれるマイクロプラスチックの分析を実施した(調査対象として小笠原捕殺個体含む)。また、一部個体において健康状態調査のための病理検査も行った。漂着・混獲情報は、既に構築されたネットワーク(行政や関係機関、漁業者、団体や個人など)からだけでなく広く一般からも収集し、関東のほか伊豆諸島・宮城県・島根県・兵庫県・静岡県・和歌山県・三重県・北海道からも寄せられた。ウミガメ死亡漂着場所の位置情報をマッピングサイトで公開し(<https://kamest.elna.or.jp/>)、情報発信を行った。

- ・ 地球環境基金助成(一部)

【日時】令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】茨城県、千葉県、東京都、神奈川県など

【従事者人員】4人

【対象】各地団体及び個人(サーファー、カヤッカー等)、行政関係者、漁業関係者、水族館関係者、大学・研究者など約200人

4. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】尾びれによるザトウクジラの個体識別調査を他団体と協働で実施した。エコツーリズムの一環として野生生物の研究や保全に関与することで、保全への理解を深めることを目的とし、市民科学の導入も実施し、尾びれ写真を一般から広く募集した。また、過去のデータを用いて小笠原に来遊するザトウクジラの個体数や生存率を解明するため昨年度より引き続き、解析に取り組んだ。また、沖縄、奄美、北海道などザトウクジラが来遊する国内地域の大学・研究機関とID写真のマッチングを実施し、回遊経路や交流の実態など生態解明に取り組み、共同研究として学術論文として公表した。

- ・ イオン環境財団助成事業(一部)

【日時】令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】4人

【対象】島民(約2,700人)

2 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:2,513千円】

1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】インドネシア現地カウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター(YPLI)」のスタッフや、YPLIスタッフを通して各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を

行った。今年度は特に活動を継続的にこなうための資金獲得に注力した。このほか、昨年度より継続して他組織のウミガメ保護に従事する人達へもウミガメに関する情報や知識の共有もおこなった。

- ・ 地球環境日本基金助成（一部）

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 ジャワ海全域（セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ州、ジャカルタ首都特別州）、西パプア州（ジェン・ウォモン地区、ジェン・シュアアップ地区）

【従事者人員】 3人

【対象】 ジャワ海西部の地域住民（30～50名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（20人）

2. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】 海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。小笠原父島内では延べ26名の父島在住ボランティアが活動に参加。島外からは延べ60名の受け入れを行った。内、49名が大学生、11名が社会人であった。昨年と比較して、新型コロナウイルスの状況も幾分か落ち着き、全体的なボランティア受け入れは増加した。ボランティアの平均滞在日数は33日。最大279日。最小7日。年度内で2回来島するリピーターが10名ほどいた。横浜事業所ではウミガメ漂着調査補助等の他、デザインや事業開発など専門を生かしたプロボノ支援の受け入れもおこなった。16名の方に、述べ47日122時間参加いただいた他、海洋生物をテーマに研究を行う学生団体に対してのサポートもおこなった。

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市

【従事者人員】 10人

【対象】 一般

3 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:12,128千円】

1. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】 小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行った。

- ・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）
- ・ 小笠原海洋センター運營業務受託事業（一部）

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】 9人

【対象】 島民及び来島者

2. 教育啓発・エコツアーリズム事業

【内容】 小笠原小学校の生徒に対して週1回の総合学習を通しウミガメに関する教育・啓発を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化を両立させることを目的にエコツアーリズム基盤を構築した。これら小笠原海洋センターでの普及啓発活動に対して、本年度2月、第18回エコツアーリズム大賞（環境大臣賞）で優秀賞を受賞した。

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 東京都小笠原村父島

【従事者人員】 6人

【対象】 一般

3. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】 前年より参加継続のさとえ学園小学校、学校法人シモゾノ学園（国際動物専門学校）、高齢者介護施設であるオーチャード沼津およびオーチャード開智（ランブラス・キャピタル株式会社）、すみだ水族館、マリホ水族館の計5組織にて子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・啓発活動を実施した。一部の参加組織に対して、子ガメ短期育成に関連したウミガメ講演や飼育死亡ウミガメの解剖講義を対面で行った。

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 埼玉県、東京都、静岡県、広島県、長野県

【従事者人員】 8人

【対象】 小学生1,000人、専門学校生500人、一般

4. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】 エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。Facebookやtwitter、Instagram、メールマガジンと連携して広報を行った。

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】 11人

【対象】 一般

5. イベント開催・講演会・学会などに関連する事業

【内容】 ウミガメに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展のほか、講演会を主催し、活動の紹介や海洋生物の普及啓発を行った。開催方式は対面での実施が主流であり、他の団体や研究者と協働で行った講演会もあった。また、各種の講演会や学会に出席、および発表を行った。

【日時】 令和4年5月（横浜マルシェ）、7月（アクアリウム・バス）、8月（Hiroo Hawaiiann days2022）、11月（Motomachi Island days、みくらのイルカ・イルカとみくら）、12月（アクションミーティング）、令和5年1月（アクアリウム・バス）、3月（ウミガメ教室小笠原ナイト、ウミガメ報告会、ウミガメ国際会議）。

【場所】 神奈川県、オンライン

【従事者人員】 9人

【対象】 一般

(2) その他の事業

1 物品販売【支出額:4,019千円】

【内容】 「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館や「ELNAショップ（エバーラスティング・ネイチャーのWEBサイトでのネット販売）」、各種イベントにおいて物品の販売を行った。広報の一助を担うELNAカレンダーを今年も販売し好評を得た。今年もアーティストにオリジナルグッズ作りの協力を得て、多彩なグッズ開発・販売をすることができた。

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 東京都小笠原村（小笠原海洋センター）、神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）

【従事者人員】 9人

【対象】 会員及び一般消費者

2. 陸域における野生生物及び自然環境の調査研究に関する事業

【内容】 小笠原諸島父島において、その数の増加が懸念されており、ウミガメの卵やふ化幼体を捕食する等、ウミガメにも脅威となっている野ネズミを捕獲しその数を調査することで、小笠原海洋センター内の野ネズミの個体数の現状を把握する。同時に、殺鼠剤がアオウミガメにおいて感受性が高いことが示唆されているため、殺鼠剤以外の方法で野ネズミを駆逐する方法を模索する。主にネズミかごを使用し、センター内でのネズミ被害は防止できた。

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】 5人

【対象】 一般

3. 野生生物及び自然環境の利活用による社会問題解決に資する事業

【内容】 ウミガメ飼育が及ぼすアニマルセラピー効果を実証するため、高齢者介護施設において外部研修者と協働で試験および検証を行う。

【日時】 令和4年4月1日から令和5年3月31日

【場所】 神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、静岡県

【従事者人員】 2人

【対象】 一般